

記者発表資料

平成27年6月4日
九州地方整備局
長崎河川国道事務所

『準備完了～吸水ポンプを常時設置～』

洪水発生時に迅速に排水作業を行うため、
排水ポンプ車の吸水ポンプを常時設置しました。

国土交通省長崎河川国道事務所では、洪水時に内水地区の応急的な内水排除を行うことを目的とした排水ポンプ車（内水排除緊急内水対策車）を3台保有しています。

そのうちの2台については、吸水ポンプの設置にクレーンが必要であるため、設置が完了するまでに時間を要し、また、台風等の暴風時には設置できないこともあります。

そこで、迅速かつ確実な排水作業を実施するため、本明川・半造川沿川の内水発生被害の恐れのある地区へ、梅雨入り前の5月29日までに吸水ポンプの常時設置を完了しました。

【設置箇所】

- ・中山西川救急排水工（本明川左岸3k200）＜1号車：5月13日設置＞
- ・船越町排水路（半造川左岸2k300）＜3号車：5月29日設置＞



吸水ポンプ



クレーンによる設置作業



設置

【問い合わせ先】

国土交通省 長崎河川国道事務所 諫早出張所
出張所長 末吉 仙英（すえよし のりひで）
〒854-0011 長崎県諫早市八天町20-15
TEL：0957-22-1356 FAX：0957-22-1357



[資料]

1. 排水ポンプ車について

- ・長崎河川国道事務所では、3台の排水ポンプ車を保有。

- 1号車 (2.5m³/s) : 1秒あたり、2.5m³ の排水能力があり、25mプール (25m×15m×水深1.2mと仮定) を3分でカラッポにする事ができます。
- 2号車 (0.5m³/s) : 1秒あたり、0.5m³ の排水能力があり、25mプール (25m×15m×水深1.2mと仮定) を15分でカラッポにする事ができます。
- 3号車 (1.0m³/s) : 1秒あたり、1.0m³ の排水能力があり、25mプール (25m×15m×水深1.2mと仮定) を7.5分でカラッポにする事ができます。



1号車

0.5m³/s の吸水ポンプを5台搭載しており、合計で2.5m³/s の排水能力があります
※ 設置あたりクレーンを必要とします



2号車

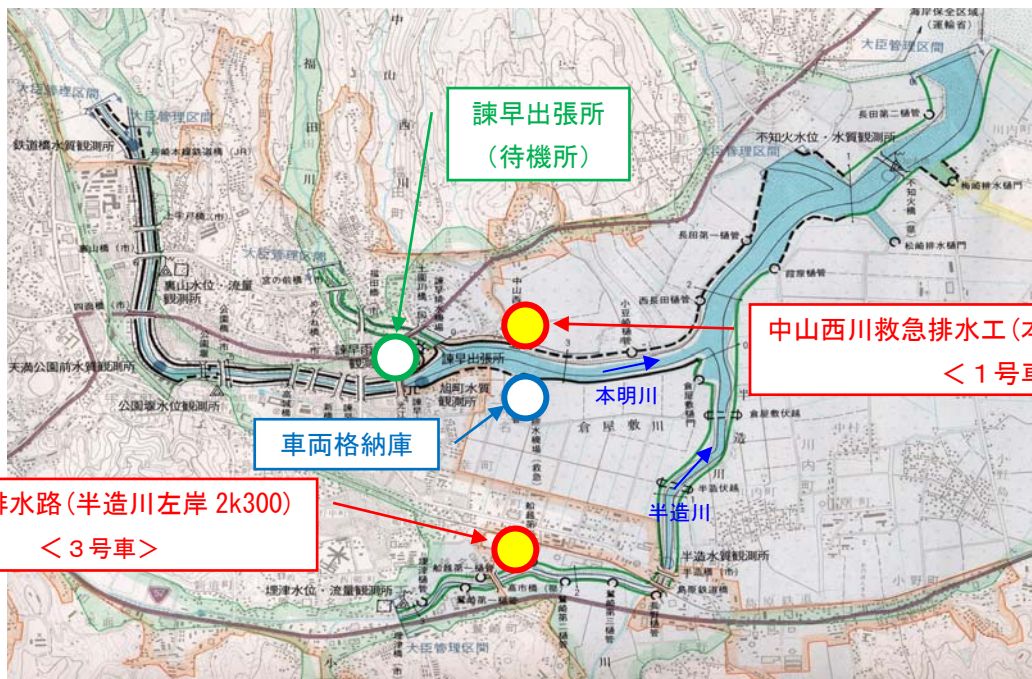
0.083m³/s の吸水ポンプを6台搭載しており、合計で0.5m³/s の排水能力があります
※ ポンプが小型のため人力で設置可能です



3号車

0.5m³/s の吸水ポンプを2台搭載しており、合計で1.0m³/s の排水能力があります
※ 設置にあたりクレーンを必要とします

2. 配備計画について



- 中山西川救急排水工 (本明川左岸 3k200) < 1号車 >
- 船越町排水路 (半造川左岸 2k300) < 3号車 >

※人力でポンプ設置が可能な2号車は、過去の内水被害発生地区や実際の内水発生状況を勘案して配置します。

3. 排水作業の手順



①ポンプやホース等をポンプ車よりクレーンで吊り降ろす。



②ブロアーでフロートを膨らませ、ポンプに取り付ける



③ポンプにホースを取り付ける。



④ホースとホースを接続。



⑤クレーンでポンプを吊り下げ川に投入



⑥排水

あらかじめポンプを設置しておくことで、作業①～⑤の時間が短縮でき、速やかに排水作業が行えます。

・ 設置状況



中山西川救急排水工（1号車）



船越町排水路（3号車）

・ 内水被害の状況



H11.7 (半造川上空)



H11.7 (船越町)



H23.8 (船越町)

半造川における排水ポンプ車の稼働状況 (H26. 7. 3)

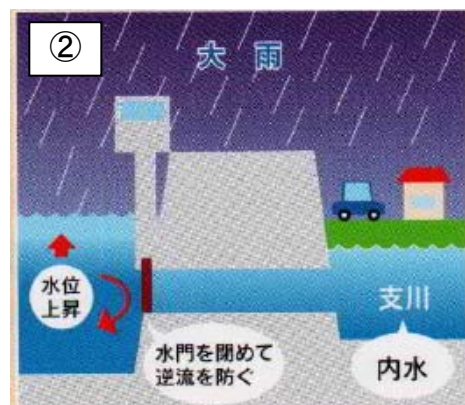


・平成26年度は、半造川で1回稼働しています。あらかじめ設置したことで出動指示から40分で稼働開始できました。

排水ポンプ車の目的 (参考)

- ① 普段は、支川や水路の水は、樋門・水門を通過して、河川へ流れています。
- ② 雨が降った場合は、河川の水位が高くなるため、樋門・水門を閉めて河川からの逆流を防ぎます。
- ③ この時、支川や水路の水は行き場が無くなり、その地域の低い所に溜まります。この溜まった水を「内水」といい、家屋・田んぼ・道路が浸かったりするなどの内水被害が発生します。
- ④ この対策として、通常、ポンプ場を整備しますが、ポンプ場が未整備の地域や地形的に整備できない地区を移動可能な排水ポンプ車により河川へ排水します。

内水被害
時に出動



内水被害
の危険！

